



みんなの ホームステイの思い出



【ホームステイ】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 川瀬 咲来

正直、私は今回のホームステイがとても心配でした。私は、6月に受け入れた子の家にホームステイできることになりました。普通だったらとても嬉しいことなのですが、私は素直に喜べませんでした。なぜなら、その時お互いに緊張していたこともあり、うまく打ち解けられなかったからです。かなり緊張しながらのホストファミリーとの対面。しかし、向こうで会ってみるとホストシスターのハンナは以前とは全然違って明るくたくさん話してくれました。初めは慣れていないためにネイティブの発音が聞き取れなかったり、人見知りということもあり、なかなか家族と話ができませんでした。その日の夕食は、ビーフシチューでした。私はビーフシチューがすごく好きで、日本でもよく食べているので、すごくうれしかったです。私のホストファミリーは、夜ごはんを食べる前に家族全員で手をつなぎ、お父さんやお姉さんが「食材、作ってくれた人、ゲスト・・・すべてのものに感謝をこめて。アーメン。」というような感じで挨拶をしてから食べ始めます。日本にはない習慣なので新鮮でした。でも、やっぱり日本の「いただきます」という言葉は素晴らしいなと思いました。「いただきます」には、食材や人、家族など、すべてのものに感謝する気持ちがその一言に込められているので、改めて素敵な言葉だなと思いました。



翌日は朝からサタデーマーケットに行きました。あいにくの雨で普段の半分もお店がないようだったのですが、それでも十分多くて楽しかったです。サタデーマーケットでは一般の方が自分で作ったものやいらなくなったものなどを売っていて、それだけでなく野菜や果物、花、パンやドーナツ、飲み物、とにかくたくさんのものが売られています。日本で言う土曜市やフリーマーケットのようなものです。そのあとは一度家に帰って、ホストマザーに教えてもらいながら、みんなでケーキポップを作りました。いろんな色のチョコレートをつけたりトッピングをしたりして外国感あふれるケーキができました。味は、すごく甘かったです。昼からはハンバーガーを食べました。お店の中ではテレビでアメリカンフットボールをやっていて、奥にはファンが集まって観戦する部屋などがありました。そういうお店は日本にもあるけど、行ったことがなかったので新鮮で楽しかったです。そのあとはたくさん買い物に行きました。そこで、私がほしかったものが売っていませんでしたが、そのあともずっとホストファミリーは友達に聞いてまで探してくれました。頼まなくてもそんなことまでしてくれるなんて本当に素敵な家族だなと思いました。



翌日には、ホストマザーとハンナと一緒にランチに行きました。「タートルズ」というメキシカン料理のお店に行きました。サンドイッチを食べたのですが、ポテトとかもついていてボリュームもあったけどおいしく頂きました。私の家族はみんな少食で、外食に行ってもみんな半分くらいしか食べないのにいつも私だけ食べきっていたので少しだけ恥ずかしかったです。その日は、ホストファザーと彼の友達の家に行ったり、コストコに買い物に行ったり、夜はみんなで映画を見に行ったりととても充実していました。

このホームステイで、色んなことをしました。一番緊張したけど楽しかったのは、食事中や食事後の家族との会話でした。初めはすごく緊張していて不安ばかりのホームステイでしたが、とても素敵な家族に囲まれて、こんなにも素敵な時間を過ごせて、本当に幸せでした。

【ホームステイ】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 木田 有紗

9 日間、オレゴン州でとても貴重な経験をさせてもらった。私は小学生の頃、約 4 年間テキサス州に住んでいたため、以前からアメリカの文化にとっても興味をもっていた。高校生となった今、再びアメリカへ行き、様々な経験ができて嬉しかった。私にとって、ホームステイをして数日過ごしたことは最も大きな財産になったと思う。このような事業に参加するのは初めてですごく不安だった。アメリカに住んでいたころは家族 4 人で生活していたため、現地の家庭での生活は未知な部分も多くあり、また、私は英語を話すのは得意だが人と接するのが苦手で、親密になるまでに時間がかかってしまうことが多い。しかし、そんな不安も 1 度会ったらいつの間にか消えていた。

私が滞在させていただいた家庭は Webster 家で、父、母、姉、妹、弟の 5 人家族だった。会う前は不安だったけど、すぐに打ち解けることができた。その日の夜はホストシスターで同い年の Madi とお姉さんの Makenzie の大勢の友達の輪に入れてもらい、チャーチル高校のアメフトの試合を見に行ったり、オレゴンで有名な Voodoo Doughnut やピザを食べに行ったりして過ごした。



翌朝、8 時に起きた私はホストマザーとファザーのふたりとゆっくり話した。私の家族や日本のことについて多くの話題があがり、英語で話すのが楽しく感じられた。その後 Madi たちが起床後、Makenzie の運転で友達の Ron と Max も一緒にモールへ向かった。日本のショッピングモールと似ていたが、一風変わった雑貨屋さんやおしゃれなブランド洋服店などがあり、やはり雰囲気はアメリカらしくてカッコよかった。その中でも特に印象に残っているのはハロウィンのコスチューム売り場である。ハロウィン当日まで、その日から残り 2 週間ほどであったため、多くの客が訪れていた。その後 Walmart と Target というスーパーに連れて行ってもらった。私は特にお菓子など食べ物に興味をもっていたため、日本との様々な違いを見ることができて嬉しかった。その後、近くの本格的なお化け屋敷に寄ってから、夜まで Makenzie の友達の家で 10 人でパーティーをした。

日曜日は、ホストファミリーと 1 日中一緒に過ごした。Madi たちはラクロスの練習が朝早くからあり、わたしはそれをホストマザーとファザーと一緒に喋りながら見学した。ラクロスは Webster 家全員がやっていて、周りの友達の間でも人気のあるスポーツだそう。その後ポートランド付近で遊び、iFly という屋内スカイダイビングもやらせてもらった。



月曜日、火曜日はチャーチル高校で実際に授業を受けさせてもらった。日本の高校とは時間割や設備、科目選択、校則など、大きく違う部分がたくさん見られた。現地の高校で英語を使ってコミュニケーションがとれたのは本当にいい経験になったと思う。2 日間とも放課後は友達と一緒に



アイススケートに行ったり、ハロウィンのかぼちゃを彫ったりして楽しい時間を過ごした。水曜からは再びほかの団員と合流して、ジョージフォックス大学やマウント・フッドを見学した。オレゴンは本当に自然が美しいと感じたし、アメリカの大学について知ることができてよかった。

この 9 日間で多くの経験をすることができ、自分の財産にすることができたと思う。

【ホームステイ】

岐阜県立大垣北高等学校2年 木村 莉子

ホームステイ。アメリカ。すべてが初めてのことで大きな期待と不安でいっぱいだった。そして、対面の時。ホストファミリーはウェルカムボードを持って待っていてくれた。喜びと共にこれから始まるのだと意気込んでいた私がいた。初めに連れて行ってくれたのは、アメフトだった。オレゴンは雨季で風が冷たく、雨も降っていた。ホストファザー・マザーは私たちのことを一番に考え、上着を貸してくれ、「寒くないか」と何度も何度も聞いてくれた。自分の上着さえも貸してくれたのだ。なんだか、体の中から温まるのを感じた。そして、そこには



ブラスバンドのメンバーとしてトロンボーンを演奏しているホストブラザーのマシューがいた。彼は、本当に楽しそうに演奏をしていて、自然とこっちまでリズムに乗ってしまった。次の日からは、ホストと1日中過ごす日々の始まり。ホストは、野生のトドが見られる海やショッピングセンターなど色々なところへ連れていってくれた。また、アメリカならではのご飯やお菓子、飲み物などその場でしか体験できない多くのことを経験させてくれた。食事をする前後には「いただきます。ごちそうさま。」と言い、私たちに合わせてくれた。私たちの習慣や日本の文化を大切にしてくれているようでとてもうれしく感じた。また、私たちが持っていったお土産を渡すと1つ1つの物に対して反応をしてくれ、持っていった私たちまでうれしくなってしまった。夜になるとみんなでゲームをして一緒にの時間を楽しんだ。研修中には私の誕生日が含まれていた。この日は、驚きと感動の連続だった。朝起きると、マザーからプレゼントをもらった。そしてその夜は、みんなでレストランに行った。おなかも満たされていていい気分だった時、突然レストランの照明が暗くなった。すると、店員さんが花火の付いたケーキを歌と共に持ってきてくれた。本場の「Happy Birthday To You」がよりムードを高めてくれた気がした。本当に驚いたがそれよりもうれしさが勝った。本当に幸せな一時だった。誕生日をアメリカで過ごす、という一生に1度あるかないかの経験がさらに濃く、忘れることのないものになった。ようやくホストとの生活に慣れてきた頃のお別れは、本当につらく自然と涙がこぼれてきてしまった。

会ったころは、緊張と人見知りからなかなかホストと会話することができなかったが、私の途切れ途切れな拙い英語を話終わるまでずっと待っていてくれたホストの優しさに触れて、徐々に自分から話しかけることができるようになっていった。いつも面白おかしく私たちを笑わせ楽しませて



くれたホストファザー。常に私たちのことを1番に考えてくれ、幾つものサプライズで私たちを驚かせ笑顔にしてくれたホストマザー。わざわざ私たちのために帰ってきてくれ、一緒にブレスレッドを作ってくれたホストシスター。質問したことに対して期待以上の答えをくれ多くのことを優しく教えてくれた、一緒に多くの時間を過ごし共有したホストブラザー。ホスト先がこの家族で本当によかったと心から思う。こんなに貴重な経験をさせてくれたホストには感謝の気持ちでいっぱいだ。すべてが私にとって大切な宝物になった。いつか、この気持ちを恩返ししたいと思う。

【ホームステイ】

岐阜県立大垣北高等学校 2年 子安 紗世

6月に一週間オレゴンから来る子のホームステイを受け入れた。私はその子の家にホームステイをすることができたが、最初の2日間は別の子の家でのホームステイとなった。私は海外に行くこと自体初めてで、また、2、3日目がホストファミリーと過ごすことになっていたのも、慣れない環境で初めて会うホストファミリーとうまくやっていけるかすごく不安だった。けれども、会った時に気さくに話しかけてくれたり、ごはんや買い物に連れて行ってくれたりして、それまでの不安が一気にふっとんだ。会話は全然うまくできなかったけれど、拙い私の英語を理解しようと一生懸命になってくれ、私に伝わりやすく話してくれてすごく安心できた。行く前は会話が一番不安に思っていたけれど、実際行ってみると、通じないときはジェスチャーをしたり知っている単語を使ったりすれば、相手も理解しようとしてくれているから伝わるのだな、と思った。最初の家庭では、一緒に買い物に行ったり、DVDを見たりしてアメリカの普段の生活を体験できて楽しかった。二家庭目では、ホームステイを引き受けた子だったので、再会できてすごく嬉しかった。その子とは一緒に高校へ行き、現地の授業を受けることができた。登下校の様子や、授業の受け方、クラブ活動など日本と違うことが多すぎて驚くことばかりだったが、たくさんの人と出会って会話ができてすごく楽しかった。家に帰ると日本と同じように宿題をやって、ごはんを食べて—と同じようなスタイルがあるのだな、と思った。最後の2日間の夜はホストファミリーとカードゲームをやった。アメリカと日本ではゲームの内容が違って、アメリカの遊び方を教えてもらったり、私が日本の「7並べ」や「ババ抜き」を教えてあげたりしてすごく楽しかった。今、日本に帰ってきてまたホームステイしたいな、と今すごく思う。本当に良い家族に出会えたことに感謝したい。



この9日間の研修を通して、より一層海外への関心が高まり、異文化への興味を持つことができた。また、多くの人と出会うことができて本当に良かった。普段日本にいと狭い世界の中で毎日同じように過ごしていて、新しい発見が見つかることはなかなかない。けれども、今回初めて海外へ行ってみて、まだ自分が見たことのない景色や、アメリカとの交流で、世界って広い、と改めて思ったし、もっといろいろなものを見たい、知りたいと思えた。また、アメリカ人も日本のことに興味を持ってくれていることを知ることができ、日本のことを知ってもらえる良いきっかけとなった。



た。2020年には東京オリンピックが開催される予定で、日本のことを世界に知ってもらえる素晴らしいチャンスだと思う。私もこの機会に何か携わりたいと思うようになった。この研修で、自分の将来の選択肢を広げることができたと思う。まずは、今やっている日々の学習に力を入れて、英語力や自立性、社会的な能力をつけていきたい。とても貴重な経験ができたことに感謝してこれからも頑張っていきたい。

【ホームステイ】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 鷲見 拓哉

僕は今回の研修でホームステイをするのは4回目だったこともあり、緊張は全くしなかった。少し不安はあったが、とてもよいホストファミリーで終始楽しむことができた。

金曜日の夕方に着いた僕は、ホストとネイティブアメリカンのデザインを残したレストランで夕飯を食べた。そこで食べたピザには、日本では見たこともないような食材がのっており、食べたことのないような味だった。また、Sサイズの割に食べきれない大きさだったのにも驚いた。その日は研修初日で大変疲れていたため、ホストファザーは僕に寝たいだけ寝てよいと言ってくれた。

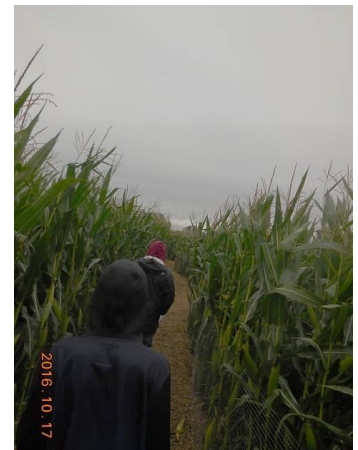


翌日の土曜日に起きた時には昼の12時ごろだった。起きた時ホストは笑顔で迎えてくれ、ワッフルを作ってくれた。アウトレットに行った。そこではナイキ・アディダス・その他有名ブランドの手ごろな価格の商品が売られていた。僕は金曜日に靴に穴が空いてしまったこともあり、ナイキで手ごろな価格の靴を買った。夕飯は日本の数倍の大きさはあるサーモン焼きを食べた。

そして日曜日を迎えた。日曜日は、コーンメイズ（とうもろこし畑を迷路にしたもの）に行った。迷路の中を、クイズカードのヒントをもとに進んでいくものである。1時間程歩きまわってやっとゴールに辿り着いた。アメリカの広大な土地ならではの体験を楽しめた。その後は、家電量販店でVR（ヴァーチャルリアリティ）の体験をし、スーパーでステーキ肉を買って帰った。ステーキは肉厚でとてもおいしかった。

月曜日と火曜日はホストブラザーと学校へ行った。学校では日本より生徒が積極的であったことに驚いた。昼食は校内の食堂でピザやハンバーガーを食べた。僕に話しかけてくれる生徒もいて、とても些細なことではあるが、とてもうれしかった。学校が終わると、月曜日はお土産屋に行った。火曜日はホストブラザーとモールで買い物をした後、ホストマザー・グランドマザーと合流し、お勧めのハンバーガー屋に連れて行ってもらった。肉もチーズもポテトもおいしく、本当によかった。火曜日の夜はホストと過ごす最後の夜であり、ホストブラザーとビリヤードをし、ホストファミリーとはテレビを見ながら30分以上話をした。その時に、ホストは現在使われていない珍しいコインをくれた。とてもうれしかった。最後にホストへの4日間の感謝を伝えてから、眠りについた。そして水曜日、ホストのお別れ。寂しい気持ちはあったが、楽しかった気持ちや感謝が優先したのか、笑顔でお別れすることができた。

全体を通して、ホストには感謝の気持ちでいっぱいである。ワッフル・アウトレット・ステーキ・モールなど、僕の希望をほぼ全て叶えてくれた。また夜も、話をしたいと言ったらいやな顔1つせず話をしてくれた。ホストブラザーは僕が質問すると、予想以上の答えをくれ、ホストファザー・マザーは僕の希望を叶えてくれた。ホストの優しさに触れたのと同時に気付いたことがある。それは、こちら側も積極的にならなければならないということである。やりたいことや希望・意思を伝えることでコミュニケーションに繋がり、感謝の気持ちにも繋がる。ホストは、ホストされる側ありきなのだ。このホームステイを通して学んだ感謝や経験を自分の糧として、今後の人生をつくっていきたい。



【ホームステイ】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 豊田 萌

私は今回のオレゴン研修でたくさんの貴重な経験をする事ができた。私が今回ホームステイした Claire さんの家族は、ホームステイ初体験だった私にとっても親切に優しく接してくれた。彼女の家族は彼女と、彼女の両親そして妹の 4 人家族だった。また、うさぎを飼っていたり庭に鹿などの野生の動物がいたり自然豊かな地域にあった。ホームステイ先が決まった段階で動物がたくさんいることを知った私はアレルギーも含め心配なことがたくさんあったが、メールで心配ごとの相談を聞いてくださり、さらに体質のことも気にかけてくださり不安なく家族の中に入ることができた。

ホームステイ初日と 2 日目はホストファミリーとの自由行動だった。私は、日本でクラシックバレエを習っているが Claire さんもアメリカで習っており、彼女が通っているスタジオのレッスンに参加させてもらった。最初はコミュニケーションが上手にとれず、不安でいっぱいだったし、何をすればいいのかわからないこともあったが、最後には友達の支えもあって、楽しくレッスンに参加することができよかった。レッスン以外の残り時間は家の近くにあった、ショッピングモールで買い物をした。主にお菓子の買い物をしたり、オレゴンストアに行ってオレゴンの有名なものを買ったりして楽しく過ごすことができた。夜は、家でホストマザーの作ってくれた晩御飯を食べた。私の日本の家ではあまり食卓に並ぶことのないアボガドなどの食材も含まれていたりお米 1 つとっても味が全然違ってどれも新鮮でとてもおいしかった。さらに、彼女の家には、日本のスタジオジブリのアニメがたくさんおいてあり、日本語バージョンで見たり英語バージョンで見たりしてたくさん交流ができた。



月曜日には、Claire さんが通うチャーチル高校に通学した。彼女が選択している授業に参加して改めてわかったことは、アメリカと日本の高校の教育システムの違いだった。日本は 1 つの教室に先生が入ってきて 1 日授業するが、アメリカは生徒が移動する形をとっていて今までにあまり経験したことがない様式で新鮮だった。さらに昼食では、カフェテリアが使えるだけでなく、校外に買い物に出かける人もいて、日本と違って自由に自分で考えて行動しなければならないことが多いのだなと改めて感じた。

火曜日は、同じくチャーチル高校に登校した。この日はまず 1 時間目から 4 時間目まで日本語クラスに参加した。ここでも日本とアメリカの生徒の違いをたくさん感じた。一つのプレゼンをした時のグループ交流やクッキングタイムの時もたくさん質問してきたりして、日本とは違い活発で積極的な国民性に触れることができた。また、6 月に大垣を訪問していた生徒もなかにはいて、久しぶりの再会を果たすことができ、よかった。



このホームステイと学校訪問を通じて、文化や国民性の違いをたくさん感じる事ができただけでなく英語力やコミュニケーション能力の向上を図ることができたと思う。また、ホストファミリーの優しさに触れ、とても充実した滞在をすることができた。

【ホームステイ】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 橋本 侑奈

オレゴン研修で 1 番楽しみにしていたホームステイ。2 年前に行ったアメリカのホームステイの時よりもっとホストファミリーとコミュニケーションを多くとると決めていた。2 年前の時より多く勉強した英語の自信とホストファミリーとの会話が成り立つのかという不安を持っていた。ホストファミリーと初めて会うまでは、不安のほうが勝っていたかもしれない。しかし、ウェルカムボードを持って待っていてくれた家族を見ると、緊張がほどこていくのが自分でもわかった。やさしい家族であることが一瞬でわかった。



まず、家族が連れて行ってくれたのはアメフトの試合だった。アメフトの試合を観戦するのは初めてで激しいスポーツであることを知った。その会場には、ホストファミリーの 1 人であるマシュー君がいた。彼はマーチングバンドに所属していて、試合のハーフタイムに演奏していた。日本では高校の試合で演奏をするようなことは、私は直接見たことがないのでここでアメリカとの文化の違いを実感した。また、高校生であるのに夜の 9 時を過ぎても試合を行っていることにも驚いた。初日から、文化の違いを肌で実感することができた。

ホストファミリーが飼っている馬にも会いに行った。人生で初めて乗馬することができた。この日は、前日までの長旅と時差ボケの影響でずっと眠たかったという記憶がある。隙の時間があればすぐに寝てしまっていた。乗馬させてもらった後に、マーチングバンドの練習の見学をさせてもらった。音色が心地よくて莉子さんと一緒にいつの間にか寝てしまっていた。ホストファザーが晩御飯に、日本食である焼き鳥を作ってくれた。日本食をおいしいと言ってくれていた。日本に対しての誇りを持つことができた。

学校の 1 日目に私にハプニングが起きた。学校に行くまでは平気だった私のおなかが学校に着いた瞬間に痛くなったのだ。どうしようもすることができない状況になり、トイレにこもっていた。その時に莉子さんが助けてくれた。莉子さんには本当に感謝している。学校を早退して、半日寝ていたおかげで夕方近くには元気になることができた。

学校 2 日目は、プレゼンテーションの発表の日。ほとんど初めて家族以外の外国の方とお話の機会だった。マシュー君がわざわざ違う授業から見に来てくれた。そのおかげで緊張もほぐれて発表することができた。学校終了後は、ショッピングモールに連れて行ってもらった。また、そこで家



族はサプライズでネイルをしてくれた。帰宅した後もたくさんのサプライズが待っていた。ホストファミリーとのアルバムを作ってくれていたり、お土産を買っていてくれたりした。私は、ホストファミリーに多く迷惑をかけてしまったのにもかかわらず、最後まで優しく接してくれた家族に感謝している。またいつか、再会し家族に恩返ししたいと思っている。貴重な体験をすることができて幸せだ。

【ホームステイ】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 箕浦 将也

僕は今回の研修が初めてのアメリカで、初めてのホームステイだった。今回の研修でとてもたくさんのことを学ぶことができたし、とても貴重な体験をすることができた。僕は Dimitri 君の家でホームステイをした。初日は、緊張して自分からしゃべりかけることができなかったが、ホストファミリーや泊まりに来ていた友達が話しかけてくれて、緊張が解け、楽しく話すことができた。現地の人の英語は、とても速かったが、僕に分かるように話してくれたおかげで、アメリカのことをたくさん知ることができたし、逆に、日本のことについて伝えることができた。現地の人としゃべることで、自分の英語力のなさを痛感し、もっと話せるようになりたいと思った。また、ホストファミリーは、僕のことを第一に考えてくれたり、僕の好きな料理を作ってくれたり、ホストファミリーの優しさを感じられた。



金曜日の夜に着いた僕を、ホストファミリーは温かく迎えてくれた。その日の晩御飯は、肉とポテトとブロッコリーという内容で、とても驚いた。また、夜に「明日何時に起きればいい？」と聞いたときに、「何時でもいいよ。ゆっくり休んでね。」というホストファザーの言葉がとても印象に残った。休日は、あいにくの雨だったので、モールへ連れて行ってもらったり、食用コオロギを作っている農家のところへ行き、試食をさせてもらったり、みんなで映画をみたりと日本ではできないことや、感じられないことを体験できた。アメリカの文化を肌で感じることもできたし、日本との違いも感じられた。僕が一番印象に残っているのは、ハロウィンの飾り用にパンプキンを切り抜いてランタンを作ったことだった。日本ではする機会がないであろうこのランタンづくりは、パンプキンが固くて大変だったが、とても楽しかったし、終わった後の達成感は格別だった。

月曜日と火曜日はサウスユージーン高校へ行った。サウスユージーン高校では、学校が2階建てで横に広いということに驚いた。高校には2日間行ったが、まったく教室の配置を覚えられなかった。授業は、日本のような受け身型の授業ではなく、生徒が先生にどんどん質問したり意見を言ったりする対話型の授業で、僕は対話型の授業のほうがより授業内容が頭に入るのではないかと感じた。また、授業は70分であるのに対し、休み時間が5分程度であるのでとても短いと感じたし、校舎が広いのに毎時間移動があるので大変だと感じた。

ホームステイ最終日の夜に食べたハンバーガーはとても大きく、食べている途中で顎が痛くなるほどだった。量がとても多かったが、おいしかった。僕はこのホームステイで好きなことなどをたくさんさせてもらえて、本当に感謝している。また、英語力を向上させることもでき、アメリカの文化についても、さまざまなことを学ぶことができた。ホームステイ以外にも、貴重な体験をすることができたし、たくさんの発見があった。この研修を通して、もっとたくさんの国に行き、様々な文化に触れたいと感じ、この経験を今後の人生に活かしたいと感じた。



【ホームステイ】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 山戸 文明

僕はチャーチル高校の Jordan 君の家にホームステイに行った。まず感じたことはネイティブの英語が僕の想像をはるかに超えていたことだった。ネイティブが話す英語はとても速くて、特に Jordan は声が低くてさらに聞き取りにくくなった。でも親や友達はそれを聞き取っていたのでネイティブは当然ながらすごいと思った。これはこの研修を通して毎日感じたことだった。またそれと同時に自分の英語力のなさにも気付く事ができた。と言うか当時の僕は人見知りと言うかホストファミリーの人に頼ってしまっていた。今思うと絶対やってはいけないことだったと正直後悔している。僕にもっと英語力があつたら以前の問題でコミュニケーションが全くできていなかった。それゆえにホストとの写真が他の子と比べて少なくなってしまった。そんな 1 日目から始まったホームステイで、緊張はしないようにしていたが、少し緊張してうまくコミュニケーションをとることができなかった。でも丁寧に家のことについて教えてくれたり、家で一番快適なところを僕の寝室にしてくれたり、後々気付いたが僕のために寝るためのマットを買ってくれていて、ホストファミリーの優しさを大いに感じられてとてもうれしかった。オレゴンでは当時は雨期でホームステイのほとんどが雨だったけど、ショッピングに行ったり高校のバスケの試合に連れて行ってくれたりして屋内でも十分楽しめた。また日本の文化とアメリカの文化の違いを感じることができた。書き出したきりが無いが、その違いによって日本のものと比べてしまって不便に思うことも多々あった。でもそれもその国独自の文化なので受け入れようと努めることを学べた。チャーチル高校の外観や内装は僕のイメージしていた通りだったが、授業のシステムや習慣に驚いた。授業中にふつうに携帯を使ったり、お菓子や昼ご飯を食べたり、日本の学校ではありえないことがいくつもあった。余談だが、僕の受けた数学の授業のレベルが日本とは大きく離れていて、内容がとても簡単だった。レベルが細かく分けられているのかもしれない。また 70 分授業でさらに 5 分休憩なので日本の学校よりはるかに 1 日が短く感じられた。また日本は日ごとに授業が違うが、アメリカは毎日一緒の授業をやっていた。



ホームステイ以外の活動では、初日はビーバートン市役所へ行った。ビーバートン市だけでなくオレゴン市は自然がたくさんあってとても住みよい街だった。ナイキの本社にも行ったし、いろいろなものを学べた。ちなみにビーバートン市で一番高い建物は 4、5 階建てのビーバートン市役所だということを聞いた。ホームステイの後には滝を見に行ったりマウントフッドに行ったりした。バスに乗りながらだったがオレゴン市の自然を学ぶことができた。ビーバートン市役所は市役所とは思えないくらい内装がきれいでとてもしっかりしていて、とても快適だった。市役所では数人働いているところを見た。英語の教科書でも読んだことはあったが、アメリカの職場は日本のそれと違って、独立していて部屋というほどではなかったが働くところが個別に区別されていた。またビーバートン市の警察署を訪問した。案内してくれたのは日本語のとても流暢なラムさんだった（日本に留学経験があるということを聞いた）。日本の警察署の中は見ることがないので比べることができないが、その警察署は犯人が逃げないようにいろんな工夫がされていた。



アメリカで一週間を過ごせて、英語に関しても生活に関してもとてもいい体験ができてよかった。でもこれ以上の経験が将来どこへいってもできるように勉強を頑張って知識をつけておきたい。

【ホームステイ】

岐阜県立大垣北高等学校 2年 由井 香菜子

アメリカについた初日の夕方、ホストファミリーと対面した。私が今回ホームステイしたのは、以前私の家にホームステイしていた Angel の家庭だったので、ずっと心待ちにしていた。最初に私を迎えてくれたのは、ホストマザーだった。すごく優しく、緊張する私に笑顔でいっぱい話しかけてくれた。本当の家族のように安心できたことを今でも覚えている。

1日目と2日目の夜は、Angel のファッションショーを見に行った。Angel はモデルをやっていて、本当にかっこいい。様々な服を着こなして歩いている Angel を見るのができて、最高に幸せだった。Angel はハグで迎えてくれた。久しぶりに再会し、感動でいっぱい、疲れていることも忘れてしまうくらいだった。

ホストファミリーと1日中一緒に過ごせる日がやってきた。私は、この週末を今回の研修で1番楽しみにしていた。朝、「Dutch Babus」というパンケーキのような料理と一緒に作った。これはすごくおいしかった。そのあと、ショッピングに行った。ショッピングモールに行き、帽子や服を見たり、メイク道具のコーナーに行き、Angel のお勧めのコスプレを教してもらったりした。あと、オレゴン大学のキャンパスにも連れていってもらった。ここには、たくさんのお店が集まっていて、オレ



ゴンダックスというフットボールチームのグッズが売っているお店もあり、楽しかった。スーパーマーケットには、魅力的なお菓子やナッツ、ジャムなどがたくさんあり、思わず買ってしまった。

また、Angel のおばあちゃんの家にも連れて行ってもらい、一緒にご飯を食べた。そのおばあちゃんがとても器用な人で、手作りのノートやボックスの教室を開いていた。そこで、私にも教えてくれると言ってくれたので、参加した。Angel も一緒に参加したので、作り終わった後にお互いのノートにメッセージを書きあった。2人で、読むのは後でのお楽しみにしようとしたので、日本に帰ってからじっくり読んだ。そのノートは、世界に1つだけの私の宝物だ。

ホームステイでは、Angel とお菓子パーティーをしながら話したり、散歩に行ったりと、穏やかでゆったりとした幸せな時間を過ごすことができた。家の近くにある、「HIDEWAY BAKERY」というパン屋さんに連れて行ってくれたり、「ブードゥードーナツ」というドーナツ屋さんに連れて行ってくれたり、アメリカのスイーツも思いっきり堪能できた。



私の1番の思い出は、Angel と話していた時間だ。だんだん英語に耳が慣れてきて、スムーズに会話ができるようになった。学校のこと、友達のこと、日本とアメリカのこと、恋のことなど、お互いのことをたくさん話した。言語や文化は違うのに、こんなに気持ちが通じるということは、本当に不思議なことだと感じたし、もっと英語を勉強して、もっといろいろ伝えたいと思った。

今回のホームステイは、私の一生ものの思い出になった。いい家族に出会えて本当に幸せだった。

【総括】

岐阜県立大垣北高等学校 2年 鷲見 拓哉

このオレゴン研修を通して、本当にたくさんのことを学ぶことができた。まずは、アメリカの文化やオレゴンの自然を、身を持って体験できた。学校では校舎の作り・ランチの違い・アメリカ人のコミュニケーション能力の高さなど、違いを挙げるときりがないほど、アメリカ文化に圧倒された。またホームステイでは、アメリカのライフスタイルや家族間の関係を学ぶだけ

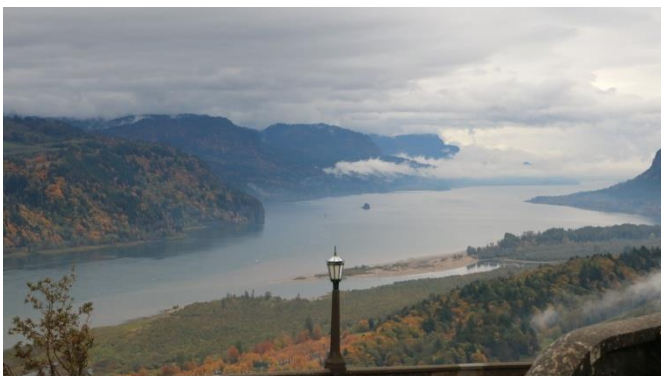


でなく、ホストファミリーの優しさに触れ、家族の温かさも感じることもできた。オレゴン州の自然については、滝や峡谷・川やダム・山など、全てのスケールが日本で見たものより大きかった。また、人の手が殆どつけられていないところも見学し、アメリカ人の自然を大切にしている心も学んだ。

このように、アメリカの文化や自然を9日間を通して存分に体験し楽しむことができた。しかしそれだけでなく、この経験を通して、日本の文化や制度を見直すことに繋がった。様々なことを日本のことと比較しながら過ごすことができた。それによって、日本人が学ばなければいけない姿勢や考え方、日本が取り入れるべき制度などをアメリカから学んだ。またそれと同時に、日本が世界に向けて誇れることや、守っていくべきことも考えることができた。国内にいただけでは当たり前のことや日本の素晴らしさも、海外へ行くことを通して再発見できた。これもオレゴン研修の意義の1つになったのではないかなと思う。

さらに、そのような大きな視点からだけでなく、人々とのコミュニケーションを通じて学んだこともある。まずは、言語コミュニケーションの大切さだ。やはり、言語からコミュニケーションは始まるのだと思う。自分の思いを伝えることや、相手を理解することの難しさ・重要性、それが出来たときの喜びや充実感など、9日間で一人一人が言語の壁をどのようにして越えるかという課題を模索し、自分の出来る最大限を尽くした。またそれだけでなく、言語を越えたコミュニケーションの大切さも学んだ。自分に言いたいことがうまく言えないとき、どのようなジェスチャー・単語なら分かってくれるのか。感謝や喜びを笑顔で伝えることなど、どれも完璧に出来たわけではないが、そのようなコミュニケーションを通して現地の人とかけがえのない絆を結ぶことができた。

オレゴン研修を通して得た経験は、全てが日本にいてはできない貴重な経験だった。この研修を通して学んだ日本とアメリカの文化の違い、高まった言語能力、海外に対しての意識、そして現地



の人と結んだ絆など、かけがえのない宝物をたくさんつくることができた。9日間で得た経験をこの研修だけのものにはしたくない、また現地の人との絆をこの先も繋げていきたいと思っている。このような素敵な経験をする事ができた僕たちだからこそ、将来的には積極的な国際交流をしていきたいと強く感じている。この経験を必ずや自分達の糧として、誇りとして、人生にわたって生かしていきたい。

【総括②】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 橋本 侑奈



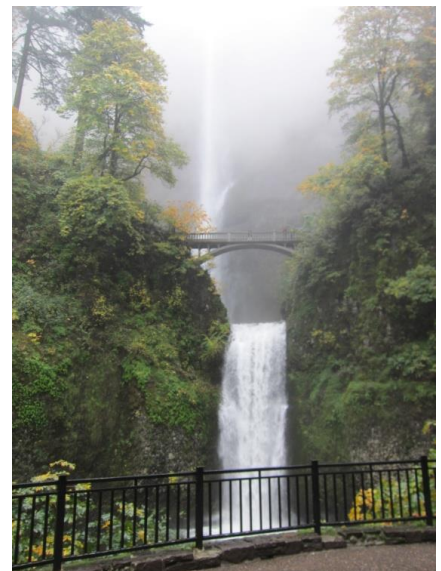
この研修を通して、オレゴン州と日本との違いを見つけてこようと思っていた。着いてすぐに、日本の冬のような気温に驚いた。空港の近くに流れていたコロンビア川は岐阜県にはないほど大きかった。また、川のほとりには多くのボートが並べられていたりして、自然と共生した生活を送っていることがわかった。オレゴン州の自然の壮大さを着いた瞬間に感じる事ができた。その日のお昼ご飯からアメリカの食事になったが量や

システムの違いに戸惑った。量は多くて、アメリカンサイズといった言葉の意味を実感した。

そして、各ホストファミリーとの時間を過ごして、それぞれでアメリカとの文化や自然の違いを肌で感じ取ることができていた。アメリカの方々のおおらかさやレディーファーストの精神など日本とは違った生活環境であった。授業のシステムは大学の講義を受けているようであった。日本とは違った環境で授業を受けたり、高校生が車に乗って通学したりと日本では見ることができない光景だった。日本では年齢制限が高めに定められていて、安全面に配慮していると改めて感じた。このように、海外で少しでも生活することで日本の良さを再認識することができた。

他国で生活していくには、言語の違いの壁がありうまく伝わらなかったことも多くあった。違う言語であっても身振り手振りを使うことによって相手に伝わることもある。また、アメリカの方々も多くボディランゲージを使っていると思った。それらを使うことによって伝わりやすくなり、言語の壁も乗り越えることができたと思う。これからグローバル社会になっていくことが考えられるので自分の意見を自分の力で発言できる力を今からでもつけていくべきだと思った。

9日間を通して、それぞれに感じた部分も多いと思う。私が特に感じたのは、1度でもいいので海外へ行って文化の違いを肌で感じるべきであるということだ。日本で生活していれば、日本の生活が当たり前だと思うだろう。しかし、今回アメリカへ行ったことによって日本の事件の少なさや、ゴミの分別を行っている点など安全面が優れていると思った。また、アメリカの良さも感じる事ができる。たとえば、学校のシステムが大学のようにあり、自分の興味を持った分野を専攻することができることなどだ。このような違いを知り、自国を見直していくことによってよりよい生活を作り出すことができると思った。また、言語の違いの壁など越えられるということだ。単語を頑張って組み合わせたり、身振り手振りを使ったりすれば伝わったことが多かった。いちばん大切になるのは、伝えようと努力することだと思った。努力した分だけ、聞く側も一生懸命聞こうとしてくれる。私たちは、この研修で自国をより誇りに思い、また他国を尊重していくことがよりよい関係を築いていく第1歩だと思った。これからも、この研修から学んだことを生かして生活していこうと思う。



第 1 回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州
ビーバートン市・ユージーン市研修派遣
【スケジュール】

内容	日時	場所
◆事前研修		
全体説明会	7 月 22 日(金) 14:00～15:00	岐阜県立大垣北高等学校
研修 第 1 回	7 月 27 日(水) 13:30～15:30	岐阜県立大垣北高等学校
第 2 回	9 月 13 日(火) 16:00～18:00	岐阜県立大垣北高等学校
第 3 回	9 月 20 日(火) 16:00～18:00	岐阜県立大垣北高等学校
直前研修	10 月 12 日(水) 16:00～18:00	岐阜県立大垣北高等学校
最終説明会	10 月 8 日(土) 10:00～11:30	スイトピアセンター
◆ビーバートン市・ユージーン市へ研修派遣		
	10 月 14 日(金) ～10 月 22 日(土) 【9 日間】	
◆大垣市への帰国報告		
	10 月 26 日(水) 16:30～17:00	大垣市役所 合同委員会室
◆事後研修		
研修 第 1 回	11 月 2 日(水) 16:00～18:00	岐阜県立大垣北高等学校
第 2 回	11 月 16 日(水) 16:00～18:00	岐阜県立大垣北高等学校
第 3 回	12 月 7 日(水) 16:00～18:00	岐阜県立大垣北高等学校
◆研修派遣団員の報告会		
	12 月 17 日(土) 13:30～15:00	スイトピアセンター スイトピアホール



【第 1 回 大垣市高校生アメリカ合衆国 オレゴン州 ビーバートン市、ユージーン市研修派遣報告書】

編集 公益財団法人 大垣国際交流協会

大垣市室本町 5 丁目 51 番地 スイトピアセンター学習館 2 階

TEL 0584-82-2311 FAX 0584-82-2314

URL <http://www.i-oiea.jp>

発行 平成 28 年 12 月